

第18回「診療所の誘致について」

静岡県の医師数は、全国と比較しても極めて低位にあります。当町も、3つの診療所が2つになる等、医師の負担が大幅に増加しています。医療機関の不足の解消は、災害時の救護体制、健康維持、定住促進という観点からも喫緊の課題であると捉えており、昨年開催された地区懇談会で、岩科地区に診療所を誘致したい構想をお話しました。

ではなぜ岩科地区に誘致したいかという理由ですが、松崎地区は津波浸水区域にあり、いざ津波が発生した場合、地域内は大きく混乱し、現医療機関の機能が低下する可能性が高いこと。中川地区は浸水区域外で適地ですが、下田土木事務所松崎支所等の移転候補地として考えており、将来像としては、現在の下田警察署松崎分庁舎や道の駅と併わせ、町民安心安全ゾーンとしての機能が整いつつあります。

一方、重文岩科学校は、明治以来から風雪に耐えている津波浸水区域外にあり、ここに隣接する旧岩科幼稚園を診療所に改築することで、より安価に岩科地区の医療および災害時の救護体制が整います。山口雲見線等の整備が完了すれば、国道が閉鎖しても、三浦地区、南伊豆町の一部地域の救護体制も確保できますので、第一の候補地として考えております。

誘致については、施設管理者（医師）の確保が一番重要な要素ですが、当町の構想に理解を示し、前向きな機関もあり、今がまたとないチャンスです。最終的な決定は、採算面や管理方法等も含め、関係機関や議員の方々と綿密に相談しながら、より良い形になるよう進めてまいりたいと考えております。